



# まいにち防災。

知って備える。



「減災」という言葉をご存知でしょうか？ 震災などによる被害、特に死傷者をできるだけ少なくするよう事前に万全な対策を立てておこうとする考え方や取り組みのことです。阪神・淡路大震災、東日本大震災を経て広く認識されるようになってきました。

「災害が起きてもなんとかなる」  
「自分だけは大丈夫」



そんな風に思っていないですか？  
災害はすべての人に分け隔てなく襲い掛かり、避けることはできません。ですが、そのダメージは減らせることができます。

これを聞いて不安な気持ちになるのは「わからないから」「備えができていないから」かもしれません。まずは情報を収集し、暮らしの中に「防災」を取り入れて、いざというときに備えませんか。



写真は、7月初めにあった大雨災害のときの曾於市内の様子。死者1名、断水が50戸、道路や河川の破損は300を超えるなど大きな被害がありました。

これからは台風の時期。この間のような大雨もあるかもしれません。

また「南海トラフ地震」は、概ね100年弱～150年間隔で繰り返し発生しており、前回の南海トラフ地震【昭和東南海地震(1944年)・昭和南海地震(1946年)】が発生してから70年以上が経過した現在では、次の南海トラフ地震発生の時期が近づいてきているといえます。

「いつか来るその日」は「今日」かもしれません。災害への備えは「いつか」ではなく「いま」始めましょう。



**東** 日本大震災等で、行政が全ての被災者を迅速に支援することが難しいこと、行政自身が被災して機能が麻痺するような場合があることが明確になり、「公助の限界」という言葉が生まれました。「公助」とは、市役所・消防・警察・自衛隊などによる公的な支援のこと。その「公助」における市役所の具体的な役割を、曾於市役所 総務課 消防防災係に聞きました。

まいにち防災。  
知って備える。



総務課 消防防災係  
淵合 靖宏 係長

**今**

回の大雨は、西日本豪雨の総雨量（10日間で1800mm）並みの総雨量（8日間で1100mm）だったという。こうした同じ雨量であっても、その地域の土壌の種類や地形によって被害の出方は異なってくる。

「消防防災係では、災害時さまざまな情報を入手し、それらの情報を基に5段階の『警戒レベル（※1）』や避難所の開設を検討します。市民の皆様へお知らせする避難情報などは各自自治体で状況を判断し、発令しているんです」

まず、台風の発生や大雨の予報が出たら気象庁に詳細を確認。警報が出た時点から待機する。その

後、警戒が必要であるという判断になれば、庁舎内に災害警戒本部を設置。会議を幾度となく開き、雨雲レーダーや気象庁などの専門のデータから、その後の気象状況などを予想する。避難情報の発令とともに、避難所の開設や各機関への指示も行っている。

「天気は刻々と変わるものなので常に最新の情報を集めています。気象情報や消防団などの現場から届く情報をもとに、警戒レベルを上げるべきかなど判断します」

非常時は確かな現場の情報を求めている中、消防団が迅速に現場へ向かってくれる。川の氾濫や崖崩れによる通行止めのインフラ情報を庁内で共有。場合によっては全市民に伝わるようにラジオなどで広報を行い、二次災害への被害を抑えるように動く。

「暗くなつてから動くのでは、市民の方を危険にさらす可能性が上がります。なので、なるべく避難所開設や避難情報の発信も明るいうちに行うことを目指しています。」

◎ 5段階警戒レベル（※1）

警戒レベル	避難情報	とるべき行動	
自治体発令	5	災害発生情報	命を守るための最善の行動をとる
	4	避難指示 避難勧告	避難場所へ速やかに避難
	3	避難準備・ 高齢者等避難開始	避難に時間のかかる要配慮者は始める
気象庁 発表	1~2	大雨注意報 大雨警報	避難の準備を始める

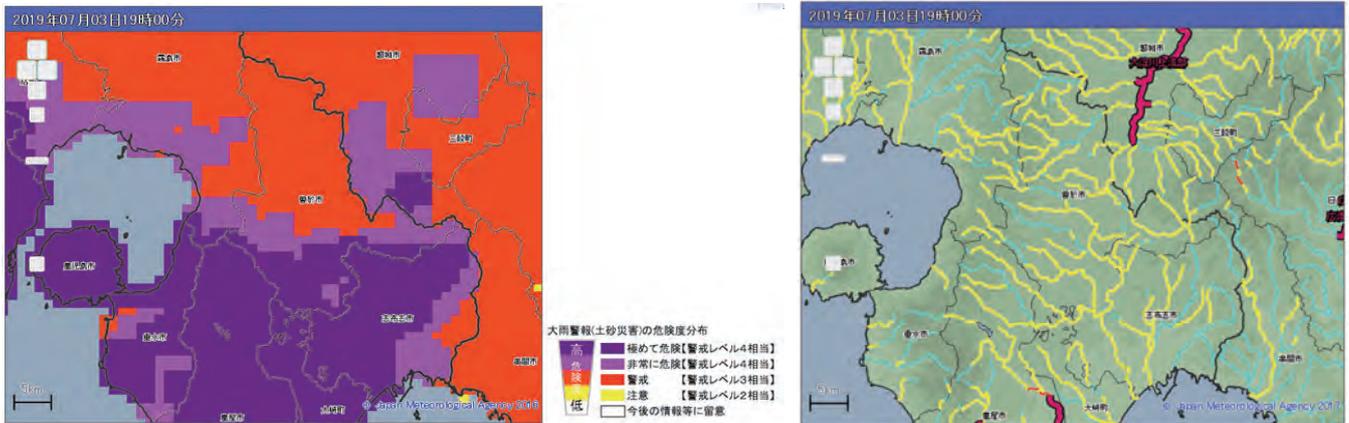
皆さんも不要な外出は避け、早めの避難を意識していただけたらと思います。ただし、避難情報が出たからといって必ず災害が起こるとは限りません。その時は『被害がなくてよかった』と思っただけだったら幸いです」

“自分の命は自分で守る”。そのためには判断するための情報が不可欠。その情報をわかりやすく提供することが行政の重要な役割のひとつである。

まいにち防災。  
知って備える。

日々、ネットやテレビから届くたくさんの情報たち。非常時にはこういったものを見れば良いのか、またその情報は具体的にはどういう状況を指すのか、今から知っておきましょう。

## ◎ 気象庁の防災情報をチェック！



気象庁では「気象警報・注意報」のほかに、地図でみることができる「土砂災害警戒判定メッシュ情報（左図）」や「洪水警報の危険度分布（右図）」なども情報として発信しています。「雨が強くなってきたな」など感じたら、自分でもチェックしてみましょう。どの情報にも危険度の目安が色別でレベルとともに記載されているので避難の参考に。

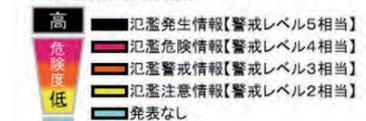
出典：気象庁ホームページ

(<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>)



### 指定河川洪水予報

国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな被害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。



### 洪水警報の危険度分布



## ◎ 降水量の目安を知ろう！

降った雨がどこにも流れ去らずにそのまま溜まった場合の水の深さで、mm で表しています。例えば、「1時間で100mmの降水量」は降った雨がそのまま溜まった場合、1時間で雨が水深10cmとなるとということです。



20mm～30mm / 1時間

どしゃぶりの状態で傘をさしても濡れる。寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。階段が滝になり、車のワイパーを速くしても見えにくい。



30mm～50mm / 1時間

バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようなになる。小さな土砂崩れが起きる。



50mm～80mm / 1時間

滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）。水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなり、車の運転は危険。傘は全く役に立たなくなる。

## ◎ 浸水の目安を知ってる？

洪水が起こったり、排水路などの処理能力が限界に達すると、市街地や家屋が水に覆われます。これを「浸水」といいます。氾濫した水の流れは勢いが強いいため、大人でもヒザ程度の深さで歩けなくなります。

100cm

立てない。車が流される。

70cm

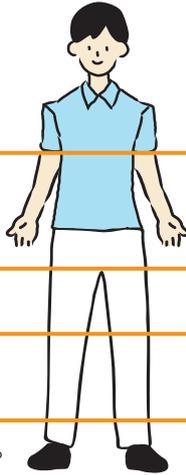
健康な成人も流される

50cm

何かにしがみつかないと立てない。車が浮く。

30cm

健康な成人がやっと立てる。歩行は困難。



健康な成人も流される



10cmの浸水で車のドアが開かなくなる。家のドアも20cmの浸水で開かなくなるので注意。

曾於市内には3町合わせて、27の消防団がある。災害が発生しそうな時は詰所に待機。消防団本部と連絡を取りながら、地域住民への広報や被害状況の確認などを行っている。消防団員は専業である消防士とは違い、本業を別に持った地元住民。しかしながら、非常時には消防署と連携し救助を行うことも。現場の様子を、大隅南分団長の竹元研二さんに話を伺った。

### 「共助」の要ともいえる消防団の存在。



曾於市の中でも土砂崩れなどの被害が特に多かった大隅町。大隅南地区でも、市道をひとつ残して、他がすべて土砂崩れによって通行止めになり、緊迫した雰囲気があったという。

「被害状況を点検して、よし詰所に戻ろうって来た道に戻ると通ったあとに土砂崩れが起きていて、帰れないということもありました」

今まで台風での待機はあったものの、今回のように大雨による待機と大きな被害は初めてだった。

「地区の自主防災組織に高齢者宅に声をかけてもらうようお願いしたり、車で路肩に落ちてしまったという方を救急搬送し、救急車が待機している所まで送るなど初めての事態も多くありました」

そんな危機的な事態も消防団OBからの情報や地元のネットワークに助けられたそう。

「台風の時など、道に倒木があると本部からの指示を受けて、車が通れるように自分たちで緊急処



大隅方面隊南分団長  
竹元 研二さん

置することもありません。だけど、助ける側の自分たちが被害にあってはいけないというのが大前提なので、現場の判断で引くときは引く、というのも大事ななんです」

使命感だけでどんどんやるだけではないけない。自分たちのできることを常に考え、過ぎ去ったあとでも『もつとこうできたのでは』と考え続けることが大切だそう。

「大変だったのはうちだけではなく、どの消防団も同じ。この経験を全体で共有して、今後につなげていくのが大事だと思います」

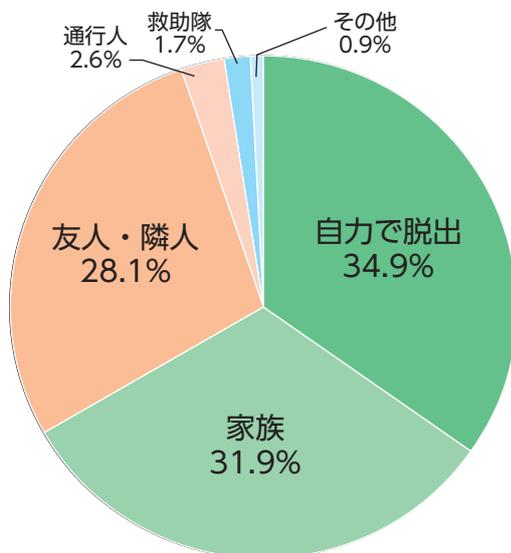
地域を想い、非常時も最前線の現場で動く。各地域で活躍する消防団の存在は、とても頼もしい。

まいにち防災。  
知って備える。

災害からの被害をできる限り少なく抑えるためには、常日頃から自ら取り組む「自助」、地域で取り組む「共助」を行い、大規模災害に備えることが必要になります。

その「大丈夫」、間違ってます！

## Q&Aコーナー



「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より

**Q.** 災害のときって救助隊が助けにきてくれるでしょ？

**A.** 阪神・淡路大震災では、7割弱が家族も含む「自助」、3割が隣人等の「共助」により救出されており、「公助」である救助隊による救出は数%に過ぎなかったという調査結果があります。災害時には、救助隊や救急車などの数に対し、負傷者が数多く出るため、負傷者全員を同時に救出・救護することはできません。また、道路や交通手段に大きな被害が出ると物資を運ぶ物流も機能低下します。そのため、自助や共助での助け合いが重要になってきます。

災害がおこったとき、「自分が無事であること」が最も重要です。一人ひとりが自分の身を守る最善の行動を心がけましょう。

**Q.** もう3日も雨が続いていて、これからもっと雨風がひどくなるらしい。今なら、近くの川の様子を確かめに行けそう。

**A.** 台風するときや大雨で土砂災害の警戒がでているときは、必要な外出は控えるのが鉄則です。「ちょっとだけだから」と思って、田んぼや畑の様子を見に行く人がいますが、向かう途中で事故にあったり、川の氾濫に巻き込まれ、命を落とす人が少なくありません。田んぼの用水路の管理などは、大雨の予報が出たら早めに行いましょう。また、防災ラジオやテレビなどを意識して、最新の情報を集める習慣をつけましょう。

**防**災は「非常時」のものではなく「日常的」にやるのが理想的。自分の生活に合わせて、無理なく行いましょう。「災害のために！」とあまりかたく考えすぎず、楽しみながらすることが長く続けるコツです。情報収集も普段からニュースなどを見て、状況を想像するなど習慣化しましょう。

まいにち防災。  
知って備える。

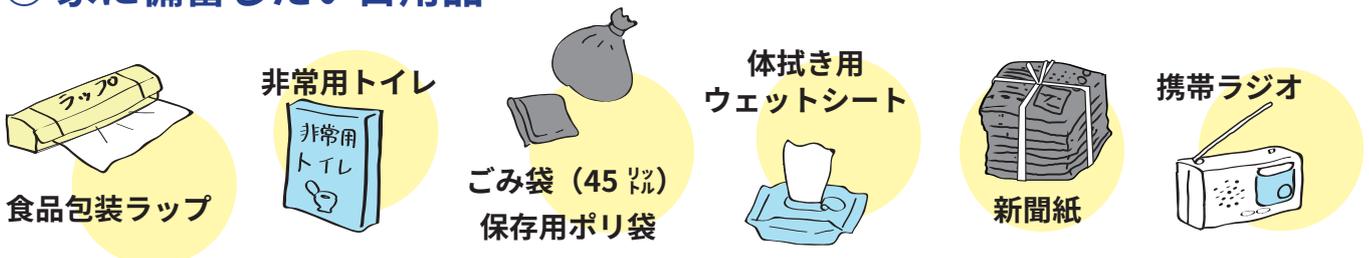
## 日常の中で「使いながら補充」を習慣に。 「ローリングストック法」って知ってる？

備蓄は特別なものと考えず、日常生活に組み込みましょう。レトルト食品や水、日用品など普段使っているものを多めに家においておき、使ったら買い足すという「ローリングストック法」がおすすめです。

「災害時に初めて食べたなら口に合わなかった」「肌に合わなかった」という心配もなくなります。食料は1週間分を目安に備蓄したいところ。飲料水であれば1日最低でも1人2ℓ、食材は自然解凍で食べられる冷凍食品やフリーズドライ、乾物などもおすすめ。



### ◎ 家に備蓄したい日用品



ほかにも… ブランケット・救急セット・マスク・ポリタンク・バケツ・クーラーボックス・軍手・長靴・レインコート・カセットコンロ・カセットガスボンベ・ランタン・懐中電灯・乾電池・タオル類・携帯充電器などなど…自分に必要なものを考えましょう！

「食べ物は支援とかでもらえるのでは？」 そんな風に思っていないですか。  
災害時はライフラインが停止したり、土砂崩れなどによって交通が麻痺することが予想され、十分に物資をまかなえない可能性があります。

## すぐできる！家具の配置チェックや固定。 いざというときのための準備を。

地震のとき、家具が折り重なって倒れ、出入口が塞がれてしまうと、避難の遅れにつながります。普段は到底動かすことのできない大きな家具も、凶器となって襲い掛かってきます。また、大規模災害の時は避難所のスペースも足りなくなる可能性があるため、自宅避難ができるように「住める」状態を保つためにも、家具の固定は必須です。家具の転倒防止には、壁に固定する「ネジ留め」が一番効果的です。さまざまな種類があるので、使い勝手の良いものを選びましょう。



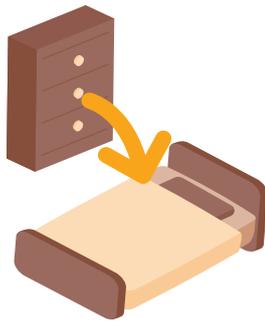
### ◎ まずは置き方から

避難通路となる廊下、出入口には転倒しやすい・動きやすい家具類を置かないようにします。リビングなどの座る場所や寝る場所にはなるべく家具を置かないようにするか、背の低いものに。また、置くときの方向に気を付けましょう。



NG

寝ているベッドに倒れてきてしまう。引き出しが飛び出し、中のものが凶器となって飛んでくる可能性も。



倒れたとしてもベッドには影響のない向きに置く。



### 情報収集はどこから？

#### 曾於市公式アカウントやホームページを登録しておく

防災情報（避難情報）は、Soo Good FM【87.4MHz】、緊急速報メール（エリアメール）、市ホームページ、曾於市安心安全メール、市公式SNSで皆さんへお伝えします。いざという時に備えて事前に登録しておきましょう。

安心安全メール



LINE



Facebook



Twitter



曾於市 HP



参考文献：『今からできる！日常防災』監修 永田宏和・ボーイスカウト日本連盟（池田書店）

『何が起きてても命を守る防災減災BOOK』編者 ゆうゆう編集部（主婦の友社）

『死なない！死なせない！大地震から家族を守る』著 三井康壽（世界文化社）